The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	持ち家のソーシャル・キャピタル形成に与える影響に関する分析
Author(s)	布施, 匡章
Citation	大阪大学, 2008, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/86
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【10】

氏　　名	布　施　匡　章（ふせ　まさあき）
博士の専攻分野の名称	博　士（経済学）
学　位　記　番　号	第　２１７２５　号
学位授与年月日	平成 20 年３月 25 日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当 経済学研究科経済理論専攻
学　位　論　文　名	**持ち家のソーシャル・キャピタル形成に与える影響に関する分析**
論文審査委員	（主査） 教　授　伴　　金美 （副査） 教　授　本多　佑三　　教　授　ホリオカ、チャールズ　ユウジ

論　文　内　容　の　要　旨

本論文は、地域コミュニティにおけるソーシャル・キャピタルの重要性に着目し、ソーシャル・キャピタル形成に与える要因を明らかにするとともに、ソーシャル・キャピタルの形成と密接にかかわると考えられ、家計の動学的行動の中で重要な役割を果たす異時点間の代替弾力性の推定を行い、日米比較を行うことで、わが国の家計行動の特徴について検討する。

ソーシャル・キャピタルは、近年地域再生のあり方を考える上で重要な要素の一つとして注目されているが、本論文は、持ち家の有無がソーシャル・キャピタル形成に大きな役割を果たしていることを調査データに基づいて実証している。一方、ソーシャル・キャピタルは、それへの投資行為があって形成されるものであるが、それは家計の消費行動の一部として観測される。ソーシャル・キャピタルへの投資は、耐久消費財と同様に、投資行為から得られる効用は支出時点以降多期間にわたるものであり、家計の動学的行動の視点から分析するには、この点について十分に配慮する必要がある。そこで、本論文では、消費支出からえられる効用の永続性を考慮に入れた動学分析を行う。

本論文は７章からなる。第１章では、ソーシャル・キャピタルの定義が行われ、先駆者であるパトナムの「ネットワーク」「社会的信頼」「互酬性規範」に基づく概念を踏襲し、わが国におけるソーシャル・キャピタルについての先行研究をサーベイしている。第２章では、わが国における地域コミュニティ再生に取り組むニュータウンの現状について分析し、その視点から、ソーシャル・キャピタルの重要性を述べたうえで、第３章において、大阪府の泉北ニュータウンにおけるソーシャル・キャピタル形成の現状を調査し分析している。調査は住区単位に行い、2963 世帯を抽出して調査し、1071 世帯から回答を得ている。調査データに基づき、ソーシャル・キャピタルの計量化を行い、地域の印象度との相関を分析している。分析結果によれば、ソーシャル・キャピタルの指標として、自治会加入率の重要性が明らかにされている。第４章では、ソーシャル・キャピタルの形成に対して大きな影響を与える要因について分析し、持ち家の有無が大きな要因であることを分析している。持ち家をある地域に持つことは、その地域との深い関わりを持とうとする表明であり、それがソーシャル・キャピタル形成に大きな役割を果たしていると考えるのは自然であるが、本章では、統計的手法を用いることで実証している。

第５章は、ソーシャル・キャピタル形成が、投資的側面を持つことから、家計の耐久消費財購入と同じ枠組みで分析できる可能性と家計の動学的貯蓄・投資行動の一つして分析できる可能性を示している。さらに、第６章では、家計の動学的貯蓄・投資行動において重要な役割を持つ、消費の異時点間の代替弾力性の推定について、日米で行われ

た先行研究についてサーベイし、耐久財消費支出に見られる効用に与える永続性に着目した動学分析の重要性を明らかにしている。第７章では、耐久消費財を明示的に考慮した動学モデルを構築し、異時点間の代替弾力性の推定を行っている。推定結果によれば、日本の代替弾力性はアメリカよりも大きいものであった。この結果は、これまでの研究結果とも整合的であるが、消費から得られる効用の永続性を考慮すれば、先行研究よりも若干大きな値であった。異時点間の代替弾力性が大きいことは、相対的危険回避度が小さいことを意味しているが、このことは、金利上昇などの外的ショックに対して、わが国の家計の反応が相対的に大きくなることを示唆していると結論づけている。

論文審査の結果の要旨

我が国において、地域コミュニティの再生が重要な課題となっており、ソーシャル・キャピタルの果たす役割にも期待が集まっているが、本論文は、調査データに基づいてソーシャル・キャピタルを計測し、さらに、ソーシャル・キャピタル形成に与える要因についても分析し、持ち家の役割の重要性について統計手法を用いて明らかにしており、注目すべき成果と言える。さらに、ソーシャル・キャピタルの形成が、耐久消費財支出に見られるように、消費以降においても多期間にわたって効用が発生するものであることから、それを考慮して動学的最適化行動から消費の異時点間の代替弾力性を計測しているが、この分野の研究に一石を投じるものと評価できる。したがって、本論文は博士（経済学）の学位に十分値するものと判断する。